

ひまわりからの メッセージ

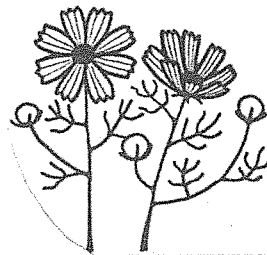
132号

2022.10.18

NPOひまわりの花内
西濃園城
発達障がい支援センター
発行人：中野たみ子

想像すること

映像とことばと……



先週末、「関ヶ原ナイト2022 野外朗読音楽絵巻」に出かけました。イベントに参加するのは余り好きではない私ですが、主人がチケットを買ったからと誘ってくれたのでした。

笹尾山を背景に舞台が設置され、高台院が日記を残していたという創作をもとに高台院役(朗読)に竹下景子さんが、家康と三成役にはオペラ歌手が配られていました。

若き日、石田三成に傾倒していた私は、三成(治部)の居城佐和山や、ゆかりの地を訪ね歩いて様々なことを想像して楽しんだものです。関ヶ原にも何度足を運んだことでしょう。

わが治部の陣跡に行けば敵陣のあたり野焼きの煙立ち出づ

この一首は当時の私の拙作ですが、関ヶ原駅を降りて、東首塚、笹尾山、島津の陣跡、林を抜けて宇喜多秀家、そして大谷吉

継の墓前へというのが、私のコースでした。時は移り、笹尾山には柵が作られ、吉継の墓に行くには広い道路を迂回しなければならなくなりました。穂すすきの道を辿った昔の趣はもうありません。

そして今年、新築された歴史資料館では壁面いっぱい歴史絵巻が映し出されていました。プロジェクト・マッピングというのだそうですが、画面を見上げながら私は子ども達の感覚のことを考えていました。

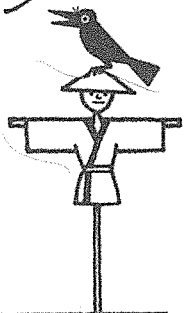
昔から感覚と言えは視・触・聴・味・嗅覚でしたが、子どもたちの発達の中で固有感覚や前庭覚ということばが使われるようになり、「感覚統合」の重要性が示唆されています。けれども今の子どもたちは、どちらかというと視覚情報に偏っているような気がします。幼少期からスマホの画面やゲームなどに親しみ、体幹が育っていない子が多くなっているように思えます。しかも、視覚刺激にさらされ、目からの情報に頼っているにもかかわらず、視覚機能に弱さがあったり、目と手の協応が上手くないかなくて学習に困難さを感じている子が多くなっているのは何故なのでしょう。

プロジェクト・マッピングを漠然とながめながら、映像の世界の良さを訴えかけることの必然と、いや、ことばから紡ぎ出される想像の世界はもっとも豊かなのにと、思いとが私の中で複雑にからみあっていました。

対話における

ユニバーサルデザイン

（S・E・N・S 研修会より）



先日、S・E・N・S（特別支援教育士）岐阜支部の研修会があった。小栗正幸先生のお話を伺いました。今回は「ユニバーサルデザイン」に関するお話で、私たちは簡単に使っているのですが、実際には知らないことが多いことを、改めて知ることになりました。

ユニバーサルデザインは、アメリカの建築家で大学教授でもあったロナルド・メイス氏が建築設計における利用しやすさや便利さの主張に携わり、ユニバーサルデザインへの理念となつて世界中に広がるとされています。

メイス氏は、九歳の時に発症したポリオによって車椅子の生活を送っていた人ですが、ユニバーサルデザインを「障害のある人を前提として考えるのではなく、障害の有無にかかわらず、分かりやすく使いやすい工夫をすべきだ」と考えられました。そして、例えばハード面として建築設計や道路網や街造りのユニバーサルデザイン化や、ソフト面では福祉や教育の面でのユニバーサルデザイン化が可能であると考えられたのです。今、

教育の場では室内の掲示物や板書の仕方、教材・教具、教え方、対話の仕方などにユニバーサルデザインが取り入れられています。バリアフリーにしても、学校での取り組みにしても、障害のある人や特別な支援を必要とする子どもたちのための支援であると考えられているように思います。今一度、私たちはユニバーサルデザインについて、考え直し、見直していく必要があるのではないのでしょうか。

へユニバーサルデザインの七原則

- ・ 公平性……誰にでも公平に使用できる。
- ・ 自由度……使用の自由度が高い。
- ・ 単純性……使い方が単純ですぐわかる。
- ・ 明快性……必要な情報がすぐわかる。
- ・ 安全性……操作ミスや危険につながらない。
- ・ 省力性……無理のない姿勢で楽に使える。
- ・ 空間性……使いやすい空間が確保される。

(Mace, Ronald, L.)

さて、今回の研修の中では、「教え方、対話の仕方」について取り上げられたので、小栗先生のお話にそつて筆を進めます。支援対象の人に対するユニバーサルデザインです。

① 公平性……私たちが関わっている人は、教えようとしても上手くない。語い力、表現力、考え方の特徴、主義主張、生

育歴、心理検査などは尊重するが、それはどの対象者にも共通の配慮であって、障害の有無という前提に立たないことが大切なことである。発達課題という捉え方は、本人にとって他人ごとになりやすい。例えばそれを性格の問題とすれば特異的なことではなく、自分事として受け入れやすくなる。私たちは、どうしても発達課題として捉えてしまうために会話が成立しづらくなるのではないか？

② 自由度……支援者とすればどうしても対象者に主義主張、社会的通念などを振り回しがちだが、むしろ支援対象者の能力、考え方、好みを尊重してみてもどうか。

例えば「〇〇がないからダメ」とか「〇〇があるからダメ」という捉え方でなく、「今はできていなくても△△ができるようになれば今はできない〇〇もできるようになる可能性がある」という発想を尊重する。

③ 単純性……複雑な手順を組み立てるとか、マニュアルを讀んでかうとか、手数のかかることではなく、シンプルであることが大切であると考えましょう。例えば「今日はSSTの勉強で人の話を聞く練習をしよう」。などと身構えてやってみてもなかなか汎化されないが、自然に練習できるような場面やゲーム性を高める遊びなどの構成を考えた方が自発性は向上する。簡単なお手伝いをしてもらった。だから「ありがとう」ということでも十分に汎化されているととらえるべきです。

④ 明快性……支援対象者に必要な情報がすぐに分かるようにすること、身構えなくても良いことは明快性の原則にも通じる。話し方にしても「君はそのところがよく分かっているので教えてあげるか聞きたい」と言うよりも「君もよくわかっているように……」と、肯定的な伝え方をしていく方が情報は対象者によく伝わる。

⑤ 安全性……必要なアプローチであっても、対象者の危険な反応が予想される場合は、その適用は避ける。例えば「死ぬ！」「殺すぞ」などと言っている支援対象者に対して、最も必要な指導は「そんなことを言ってはいけない」という禁止の指導だと思われています。しかし、そういう指導をした場合には「先生は、僕のことを信用してくれない」とか、「うるさい」とか、さらに興奮する可能性がある場合には、「また、そんな心にもないことを……」と応答した方が安全性が高い。支援に困難を感じた時には、対象者との肯定的なやりとりを工夫した方が、より安全に指導場面が推移しやすい。

⑥ 省力性……対話におけるこの原則は、支援対象者の頑張りや努力に依存しないということだという。「がんばりましょう」と言っても頑張りえない人との対話は、リラックスした状態で楽しくできる工夫をすべきで、個別の支援計画も無理のない支援の展開をはかっていく必要がある。

⑦ 空間性……このことを型通りに捉えると、支援の場所として使いやすい広さや大きさが満たされた部屋（空間）が確保されたということになるが、対話の場合の空間性は室内に捉われる必要性はない。戸外で空を見ながらでも、ありの行列を見ながらでも、草取りをしながらかうでも、対話できる。我々は対話しようとしているのだから、限られた空間でなければならぬということはない。



ユニバーサルデザインについて、十分に理解できているかと問われたり、否と答えるしありませんが、小栗先生の話を伺って、いつも思うことは、支援者である私達自身が、実は何かにとだわっているのではないかということです。「〇〇のようなケースの場合は△△であらねばならない」とか「〇〇という状況下では△△すべきではない」というような紋切型のやり方に私達自身が陥っていないでしょうか。「今、このことを正しておかないと将来困ることになるから……」と思いがちですが、私と私以外の人がいて、その関係性の中でどの様に対話していけば良いのか、反省させられます。

先日、PTSDの子どもたちへの関わりとして「ゆくり話を聞いてあげましょう」と言われるが、それはこちらが無理してでも子ども達から聞き出すことではなく、子ども自身が話して

みたい、聞いて欲しいという時でなければ逆効果であるということも学びました。

けれども教育や支援の現場では、今だに「何とか聞き出そう」「ことは言わなければ分からないでしょ」という雰囲気を感じることがあります。子どもたちが示す様々な言動には、その子なりの思いや理由があるはずですが、子どもの感情に対して支援者のことは火に油を注ぐがごとく收拾がつかなくなってしまう場面も少なくありません。話すタイミングや話し方、話しやすい場所の設定など私たち自身が工夫したり努力したりしていくことがまだまだありそうです。

小栗先生が最後におっしゃっていました。「生身の人間と人間がいて、劇的に変わるなんてことは考えられない。でも同じ空気を吸っているということ、最後に残るのは、共有ということではないのか……。そうですよ、ね。障害の有無や人種や性別や年齢のちがいはあっても、地球上で生きていますよね。私たち。

お知らせ

活動を少し広げました。
参加の場合連絡下さい。

・センター親の会……11/14・12/12・1/16・2/13・3/13

スイトピアセンター 6F

・不登校・ひきこもり親の会……毎月オミ土曜 9:30~12:00

12月だけは12/16(金) ソフトピア・パンセンター 11F

・当事者の会

10/18・11/17 オンライン参加可